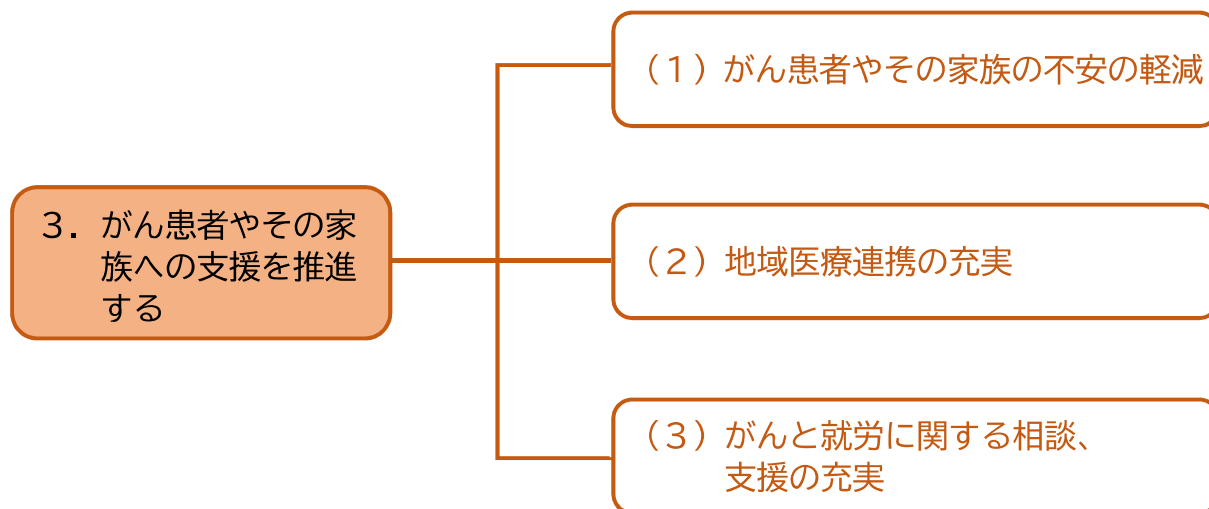


3. がん患者やその家族への支援を推進する



(1) がん患者やその家族の不安の軽減

がんの疑いを知った時から、診断、治療の開始、経過観察、療養生活といった流れの中で、誰もが衝撃を受け、混乱、不安や迷いといった様々な感情が湧き上がってくるのは自然なことです。このような状況にある患者と家族が、少しでも不安や悩みを軽減でき、その人らしく過ごすことができるように、相談支援や在宅療養、緩和ケアなどの情報提供を推進します。

①相談支援に関する情報提供の推進

【現状と課題】

現在、がん診療連携拠点病院には、がん相談支援センターが設置され、「がんの相談窓口」として、専門看護師や医療ソーシャルワーカーなどの専門スタッフが、「病気や治療に関する情報」「家族としてどう接したらよいか」「経済的な心配ごと」などがんに関する様々な相談を受けています。区内では、NTT東日本関東病院、昭和大学病院の中にごん相談支援センターが設置されていますが、設置場所や利用方法、そこに通院していなくても利用ができるなどの情報が十分に周知されていない現状があります。

また、歯科診療の面からは、がん患者の周術期の口腔ケア^{※6}が、がん治療を早期に行える等、口腔ケアの重要性を周知していくことが重要になっています。

区民が、がんに関する正しい情報が得られる方法、ピアサポート機関^{※7}、就労と治療の両立に関する相談実施機関や訪問看護等に関する情報を、ホームページや広報の活用、ガイドブックの作成、関係機関や区民に対する健康教育等をおして発信していく体制が求められています。

今後は、がん患者や家族が安心して暮らせるよう、区民の目線に立った一元化された情報提供の体制を整えていく必要があります。

【目標】

- がん患者や家族が必要な情報にアクセスできる体制づくりを進めていきます。
- がん患者支援機関等と連携し、区民の目線に立った一元化された情報提供を進めていきます。

品川区区内にあるがん診療連携拠点病院の「がん相談支援センター」



| | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| NTT 東日本関東病院 | |
| 品川区東五反田 5-9-22 電話 03-3448-6280 | (対応時間) 平日の月～金 曜日 9:00～17:00 |
| 昭和大学病院 (総合サポートセンター) | |
| 品川区旗の台 1-5-8 電話 03-3784-8775 | (対応時間) 平日の月～金 曜日 8:30～17:00 |

※6 周術期の口腔ケア：がん患者等の手術、放射線治療、薬物療法、緩和ケアに際し、口腔内合併症の予防や軽減等のために、治療前に歯科受診し、必要な歯科治療と口腔内を清潔にしておくこと。コラム「がん治療開始前の歯科受診のお勧め」参照。

※7 ピアサポート：がん患者や家族の悩みに対して、がん経験者等が、同じ経験を持つ仲間（ピア）として自分の経験を活かしながら相談や支援を行う取り組みのこと。

【今後の取り組み】

○がん相談支援センターの普及啓発と利用の推進【拡充】

がん相談支援センターについて、区民に広く情報発信していきます。

○がん治療における口腔ケアの重要性に関する普及啓発【新規】

がん治療と口腔ケアの関連について、ホームページや歯科医師会と協力し歯科事業のイベントの際などでも啓発していきます。

○がんに関する一元化された情報提供【拡充】

がんに関する正しい情報が得られる方法や、ピアサポート機関、就労と治療の両立に関する相談実施機関、訪問看護、アピアランスケア(コラム参照)等に関して、区民目線に立って一元化し、ホームページや広報の活用、ガイドブックの作成、関係機関や区民に対する健康教育などとおして、情報発信していきます。

また、小児、AYA世代のがんに関する相談支援体制について、周知に取り組んでいきます。

【目標値】

| 指 標 | 現行値 | 目標値 | 出 典 |
|-----------------|-----|-----|-------|
| 図書館でのがん情報提供実施館数 | 0館 | 11館 | 健康課資料 |

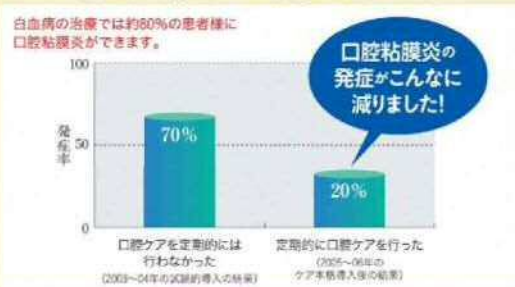
コラム ▶ がん治療開始前の歯科受診のお勧め

がんの治療開始前に歯科診療所を受診して、お口の中をきれいにしてもらうことをお勧めしています。

お口の中をきれいにしておくのがんの治療時におこるお口のトラブルを予防し、がん治療を円滑に進めることができます。



● 例えば、白血病の治療中に定期的に口腔ケアを行ったら？



● 例えば、頭頸部の手術前に口腔ケアを行ったら？



(出典)東京都福祉保健局「お口のケアががん治療を支えます！」

②在宅療養、緩和ケアに関する情報提供の推進

【現状と課題】

区は、これまでも在宅療養患者の支援体制の充実に向け、医療機関（病院、診療所）、福祉分野などと連携して様々な取り組みを進め、在宅療養に関して、介護・在宅医療・障害福祉情報の検索システム、介護サービス事業者ガイドブックの作成、医師会との協力による講演会の開催などによる情報発信を行っています。がんになっても安心して療養生活を送るためには、がん患者・家族の意向に応じて、がんと診断されたときから、様々な場面で切れ目なく緩和ケアが提供できる体制が求められています。

【目標】

○がんと診断された時から提供されるがんの在宅療養体制、緩和ケアについて普及啓発を進めていきます。

【今後の取り組み】

○地域の医療機関や在宅専門医療に関する情報提供【拡充】

がん患者が訪問診療を希望したいときには、地域のかかりつけ医やがんの在宅診療医療機関や訪問看護ステーションの情報について、手軽に調べられる環境にしておく必要があります。区ホームページで検索できる「介護・在宅医療・障害福祉情報」やガイドブックなど、がん相談支援センターとの連携をとおして周知するなど、区民に届きやすい形での情報提供に努めていきます。

○緩和ケアに関する普及啓発【拡充】

緩和ケアについて、医療、福祉機関と連携し、イベントや講演会、ホームページや広報、リーフレット等の活用により区民へ普及啓発を行っています。

【目標値】

| 指標 | 現行値 ^{注)} | 目標値 | 出典 |
|------------------|-------------------|-----|-------|
| 緩和ケアに関する健康教育実施回数 | 11回 | 増加 | 健康課資料 |

注) 平成30年度の値です。

コラム ▶ アピアランス（外見）ケアとは？

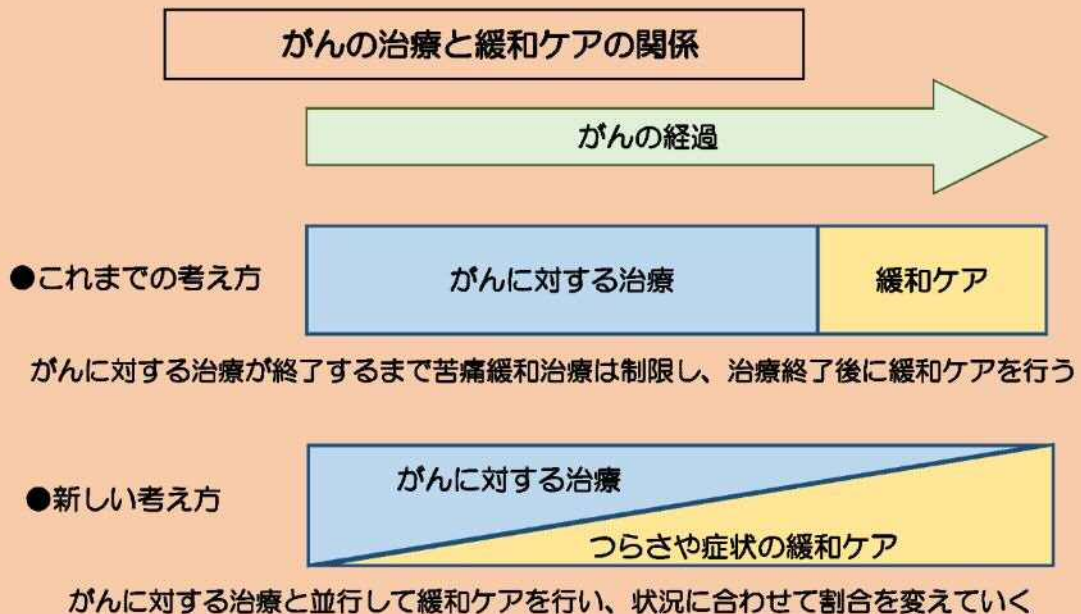
アピアランスケアとは、「医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア」と定義されています。治療を継続しながら、自分らしく社会生活を送るため、治療に伴う外見変化に対する支援の重要性が高まっています。ウィッグ、メイク、ネイル・スキンケア、胸部補装具（ノンワイヤーブラジャー、シリコンパッド等）等があります。



(出典) 国立がん研究センター中央病院ホームページ/横浜市「アピアランスケアに関するリーフレット」ほか

コラム ▶ がんの治療と緩和ケアの関係

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフ（QOL：生活の質）を改善するアプローチです。



がんの療養中は、痛みや吐き気、食欲低下、息苦しさ、だるさなどの体の不調、気分の落ち込みや絶望感などの心の問題が患者さんの日常生活を妨げることがあります。

今までのがん医療の考え方では、「がんを治す」ということに関心が向けられ、医療機関でも患者さんの「つらさ」に対して十分な対応ができていませんでした。しかし、最近では、患者さんがどのように生活していくのかという「療養生活の質」も「がんを治す」と同じように大切に考えられるようになってきています。

患者さんを「がんの患者さん」と病気の側からとらえるのではなく、「その人らしさ」を大切に、身体的・精神的・社会的・スピリチュアル（霊的）な苦痛について、つらさを和らげられる医療やケアを積極的に行い、患者さんと家族の社会生活を含めて支える「緩和ケア」の考え方を早い時期から取り入れていくことで、がんの患者さんと家族の療養生活の質をよりよいものにしていくことができます。

（出典）国立がん研究センター「がん情報サービス」

(2) 地域医療連携の充実

がん医療提供体制の中核として地域がん診療連携拠点病院（区内2か所）があり、病院の中でがん相談支援センターを設置しています。多くの患者は地域の身近な病院等でがんの治療を受けており、国や都の指定するがん拠点病院と地域の医療機関との連携体制の構築を進めていく必要があります。また、がん患者在宅療養の支援体制づくりが重要であり、患者や家族ががんになっても安心して暮らすことができるよう、支援関係者に対する人材育成への支援を進めていきます。

①がんの在宅医療における連携

【現状と課題】

地域の在宅療養支援として、医療依存度の高いがん患者に適切な支援ができるよう、医療機関や医師会などが、疾患や治療の最前線を学ぶ研修会を開催しています。また、医療、介護、福祉の専門職が支援内容の情報交換を定期的に行っています。さらに、訪問看護ステーション連絡会が定期的に行われています。今後、がん患者家族の療養支援に対する地域全体の課題の検討や共有化を図り、がん患者の在宅療養支援体制を整備していくための新たな取り組みも必要になっています。

【目標】

- がんの地域医療連携体制を充実させていきます。
- がんになっても、区民が希望する場所で安心して療養できる環境を整備していきます。

【今後の主な取り組み】

- がん地域医療連携の推進【新規】
がん相談支援センター、在宅診療機関、薬局、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター、保健センターなどの関係者が集まる連絡会を開催するなどして、区内のがん診療連携における現状や課題を共有し連携を強化していきます。
- 相談体制の充実【新規】
かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師など身近に相談ができる体制づくりや、がん相談支援センター等と連携した相談会の開催に取り組んでいきます。

【目標値】

| 指標 | 現行値 | 目標値 | 出典 |
|-------------|-----|----------|-------|
| 連絡会等の開催回数 | 0回 | 増加（1回/年） | 健康課資料 |
| 他機関と連携した相談会 | 0回 | 増加 | 健康課資料 |

②人材育成への支援

【現状と課題】

区は、在宅療養支援体制を整備していく中で、多職種を対象とした講演会の開催等、人材育成の取り組みを進めています。がんの在宅緩和ケアにおいては、関係者が、がんに対するより正しい知識を持ち、在宅で最期を迎える患者やその家族に寄り添う対応や、看取り後に残された家族への精神的ケア等の専門的な支援が求められています。

【目標】

○地域医療機関や訪問看護ステーションなどの専門機関と連携し、人材育成の取り組みを支援していきます。

【今後の主な取り組み】

○がん患者の在宅医療等を担う人材育成に対する支援【新規】

がん患者の在宅療養を担う医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師や看護師等を対象に、サービスの質の更なる向上をめざし、研修の開催や意見交換会などを企画します。

【目標値】

| 指 標 | 現行値 | 目標値 | 出 典 |
|------|-----|-----|-------|
| 研修会等 | 0回 | 増加 | 健康課資料 |

コラム ▶ AYA 世代のがん患者について

AYA（アヤと読みます）世代とは、Adolescent&Young Adult（思春期・若年成人）のことをいい、15歳から39歳の患者さんがあてはまります。

小児に好発するがんと成人に好発するがんがともに発症する可能性がある年代であり、肉腫など、AYA世代に多い特徴的ながんも存在します。従って、この年代のがんの診療には、小児および成人専門の医師、看護師をはじめ、多職種が連携して診療を行うことがとても重要です。また患者さんも中学生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化する年代であり、患者さん一人ひとりのニーズに合わせた支援が必要となってきます。

（出典）国立がん研究センター中央病院ホームページ

(3) がんと就労に関する相談、支援の充実

がんになり患した人の中には、職場の理解・支援体制が乏しいがゆえに、離職に至ってしまう場合や誰にも相談できずに自ら離職の決断をする場合もみられます。就労可能な状態にも関わらず、職場復帰、就労の継続が困難になってしまわないように、相談機関の情報提供を図ります。

①情報提供の充実

【現状と課題】

区は、がんになり患した区民の就労支援に向けて、中小企業事業主などへのチラシによる啓発や区ホームページによる情報発信のほか、出張健康学習、健康大学しながら講座を行ってきました。

仕事に関する相談、病気に関する情報・相談、医療費・生活費のこと、在宅療養・緩和ケアのことなどの情報提供を行っています。



【目標】

○がんと仕事の両立に関する相談機関の情報提供の推進

がんになり患しても治療を受けながら仕事が継続できるよう、がん患者やその家族に両立支援の窓口を紹介し、区内事業所等においても、がん患者の就業の継続が図られるよう、体制整備のための情報提供を行っています。ホームページによる情報発信やガイドブックの作成などに加え、がん相談支援センター等の社会保険労務士の相談につながるよう積極的な情報発信に努めていきます。

【今後の取り組み】

○がん相談支援センターの周知【拡充】

がん患者やその家族が退職を選択する前に、診断早期に主治医等の医療従事者から患者および家族に対し、がん相談支援センターで治療と仕事の両立に関する専門の相談が受けられることを周知していきます。

○仕事との両立支援に関する相談機関の周知【拡充】

ハローワーク、各関係団体や東京産業保健総合支援センター※8等が相談窓口を設け、がんの治療と仕事の両立支援をしていることを、ホームページ、広報、ガイドブックの作成、講演会やイベントを活用して周知するなど、積極的な情報発信を行っています。

※8 東京産業保健総合支援センター：労働者数 50 人未満の事業場を対象に、無料で地域産業保健サービスを提供している。品川区は都南地域産業保健センター（目黒区）が所管している。

事業所などに対して、がん相談支援センターだけでなく、法人や民間団体などが、がんの治療と仕事を両立するための制度や相談窓口を設け、がん治療と仕事の両立支援をしていることを発信していきます。

【目標値】

| 指 標 | 現行値 | 目標値 | 出 典 |
|--------------------|-----|-----|-------|
| がんと就労に関する健康教育の実施回数 | 11回 | 増加 | 健康課資料 |